研究会の検討の方向（素案）

１　全体の視点

○　高齢者も前期／後期、同居／一人暮らし等の事情によりニーズは大きく異なり、障害者も障害の種類、程度等の事情によりニーズは様々である。ＩＣＴ利活用の推進の在り方を検討するにあたり、高齢者・障害者のこのような多様なニーズをどのようにして把握し、反映していくべきか。

２　高齢者・障害者のＩＣＴ利用に関する問題

○　高齢者・障害者がＩＣＴを容易に利用できるようにするためには、機器やサービスのユーザビリティ（使いやすさ）やアクセシビリティの高いものとすることが必要である。政府や民間団体による指針づくり、啓発活動等によるこれまでの成果や欧米の動向も踏まえ、機器やサービスのユーザビリティ（使いやすさ）やアクセシビリティを高めるには、どうすればよいか。

○　高齢者・障害者にとって便利な機器やサービスが提供されるようになった場合、その情報が高齢者・障害者やその支援者に迅速に共有されることが望ましいが、現状をどのように評価するか。また、今後の政策的課題をどのように考えるか。

○　高齢者、特に一人暮らしの高齢者がＩＣＴを容易に利用できるようにするためには、パソコンの使い方等を分かりやすく教えることのできるサポート体制が重要であるが、現状をどのように評価するか。また、今後の政策的課題をどのように考えるか。

○　障害者がＩＣＴを利用するためには、利用を支援するソフトや機器が必要である。障害に合った適当なものの入手が困難である等問題が多い現状であるが、今後、どのように対応すればよいか。

○　特に障害者の場合、ＩＣＴを容易に利用できるようにするためには、パソコンの使い方等を分かりやすく教えることができるだけでなく、利用者に応じた支援ソフトや機器の手当もできるようなサポート体制が必要であ

るが、現状をどのように評価するか。また、今後の政策課題をどのように考えるか。

３　高齢者・障害者のＩＣＴ活用に関する問題

○　ＩＣＴをツールとした就労、起業、ボランティア等の積極的な社会参加は、高齢者・障害者の生きがい創出につながるとともに、社会全体の活性化にも貢献すると考えられる。このような高齢者・障害者によるＩＣＴを活用した積極的な社会参加を阻害する要因は何か。また、阻害要因を除去するための方策をどのように考えるか。

○　これまでの政府の取組は、高齢者・障害者に使いやすい機器・サービスの開発への支援やウェブサイトのアクセシビリティ確保等、主として高齢者・障害者が「情報を受信する」ことのバリアを軽減、解消することを目標としてきた。今後は、高齢者・障害者が自ら「情報を発信する」ことへの支援も強化していく必要がある考えられるが、このような活用支援の在り方をどのように考えるか。

４　今後のＩＣＴ社会の展望と高齢者・障害者

○　新技術・新サービスの登場や電子政府・電子自治体の進展等今後のＩＴ社会を展望し、高齢者・障害者のＩＣＴ利活用の推進の在り方をどのように考えるか。

○　高齢者のＩＣＴ利用が進まない理由の一つとして、魅力的なコンテンツやサービスが少ない等の要因により、現時点では、ＩＣＴ利活用のメリットが感じられないことが挙げられるが、今後の見通しはどうか。また、今後の政策的課題をどのように考えるか。